

第53回病診連携委員会要録

日 時 平成26年5月26日(月) 午後7時45分
場 所 浪速区医師会 会議室
出席者 浪速区医師会 : 10名
南 医 師 会 : 1名
鶴見区医師会 : 2名
愛染橋病院 : 2名
大野記念病院 : 2名
浪速生野病院 : 2名
富永病院 : 2名
大和中央病院 : 3名
内藤病院 : 2名
育和会記念病院 : 2名
地域包括支援センター : 1名
居宅介護支援事業者連絡会 : 1名
浪速区医師会事務局 : 1名

今回は鶴見区医師会より参加があった。

議 題

1. 第52回病診連携委員会報告について

前回委員会での議事内容の報告と確認を行った。

2. ブルーカード事例検討等報告について(育和会記念病院)

連携参加後2件のブルーカード登録(1件はかかりつけ医として、1件は通常の紹介として登録)いずれも生野区の先生からの登録で、これまで実際に発動された事例はなかったとのこと。今後生野区医師会の参加が本格的になれば、更なる登録が増えることが期待できる。

3. 病診連携委員会のアンケート結果について

《地域連携室・病院医師に対しての質問》

質問: かかりつけ医にかかっている患者を診察する場合、病歴等が判らなくて困るケースは日にどの程度あるか?

ほとんどの医療機関で正確な数字を出すことは難しいとのことであったが、日に2-3件から10件と返答にばらつきがあった。あったとしても診療情報提供書を依頼すれば特に困ることはないとのこと。しかし、何か所もの医院にかかっているケースに関しては判りにくいこともある。

質問: 同様に普段の外来診察において、お薬手帳がなくて、他の医慮期間の処方わからなかったり、最近の採血データが分からないケースはどの程度ありますか?

基本的には持参していることが多く、困らないという意見もあれば月に10件程度との回答があった。全般的に受診時にわからないケースでも後日わかることがほとんどで、現場から医療連携室に苦情が届かないため不鮮明であ

ることが多いとのことであった。

《開業医への質問》

質問：ブルーカードを登録しても良いケースで、他の医療機関にもかかっている
ので登録しづらいケースはどの程度ありますか？また他の医療機関の薬剤情
報や採血情報が判らないために、困るケースはどの程度ありますか？

困ると答えた医院もあったが、大抵はスムーズな登録ができているとの回
答が聞かれた。採血結果に関しては、結果を持参することを忘れる患者や医
療機関からももらえないことも中にはあり、登録時に困ることもあったとい
う意見があった。

《包括ケアマネへの質問》

質問：主治医連絡票が実現すれば、医師との連携は十分ですか？

（居宅）定期的な医師との研修会等の開催があればなお良い

（包括）医師への周知説明が十分であればスムーズになると思われる。

特に認知症に関しては個別な対応が求められ、顔が判っていれば
電話やFAXでの対応も可能と考える

質問：他に医師との連絡を取りたいケースはありますか？

（居宅）急変時（明らかに救急依頼を要する症例を除く）、ヘルパーからの
相談を受けた時、病院がかかりつけの時には困ることがあると。

（包括）初診から往診をしてくれる医師を知りたい。病院に行くことは拒
否しても往診なら受け入れる患者がいるとのこと。

これに関してはHPにUPされている「かかりつけ医申請書」に記入
し、浪速区の医師会へ依頼してもらえれば『かかりつけ医制度』を
利用して割りつけていく。

4. 在宅医療連携等の取り組みについて（鶴見区医師会）

鶴見区では内科系医師が主に在宅医療に取り組んでおり、終末期医療はしてい
ない施設がほとんどである。しかし中に、80例ほどの症例を抱えながら患者負担を多
くしないため在総診も取らず、看取りまでしている医療機関も1件あり積極的な医師
とそうでない医師とに分かれる。医師会としては医療マップ、連携シートの作成に
は取り組んでいるが、連携シートは実質利用されていない。その他各種連携事業の
講演会などには積極的に参加している。鶴見区において現在170人の独居認知症患者
が確認されており、救急カプセルの利用促進に賛同している。病診連携に関しては
小さいコミュニティである故、電話での対応が可能であり、ネットワークの構築
は不要であるのが現状。診診連携も今のところ進んでいないとのこと。以上のこと
を報告していただいた。

5. 後方支援病院としての取り組みについて（愛染橋病院・大野記念病院）

《愛染橋病院》

取り組みを始めているが、ブルーカードとの使い分けに関して今後検討が必要と
考えている。すべてがブルーカードになれば、病院側としても統一され簡便になる
ことが期待されるものの、浪速区以外の医師会では使用されていないこともあるた
め混乱することが予測される。

《大野記念病院》

すべての地区からの在宅後方支援病院として位置付けている。ブルーカードの使用をしている医療機関はそのまま使用していただき、そうでない施設は診療情報提供書を基本としている。書式を統一されることが望ましい。在総診で診ている医療機関が対象。

6. その他

(1) 登録件数

ブルーカードの全登録件数 576件、使用状況 663件、5月1日から本日までのカード動向57枚（新規27件、入院6件、中止12件など）。ちなみに中止報告書は医療機関のかかりつけ医変更が多かった。

(2) 富永病院からのお知らせ

日本頭痛学会・第1回Headache Master School Japan-Osaka

日時 7月20日（日）

場所 ヒルトンプラザ・ウエスト

次回会議予定 平成26年6月30日（月）午後7時45分～